

令和6年度屋久島世界遺産地域モニタリング調査等予定表

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要	調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準		初回	前々回	前回	今回	次回		
O 基礎 的環境情 報が把握 されてい ること	—	気象デー タの測定	1	—	—	「気象データの測定」 調査項目: 気温、湿度、地温 調査地: 西部地域の大川の滝(標高0m)、小 楊子林道(標高300m)、花山歩道(標高 500m、700m、900m、1200m)の5箇所 ※1400m、1600mは未設置	H23.3、11 H24.7 H25.3 H26.11 H27.2 (花山) H28	R4	R5	R6	R7	環境省	毎日(10分毎) ※ただし、 機器不調で気 温、湿度のデ ータを今まで 収集できてい ない。
						「気象データの測定」 調査項目: 地温、土壤水分 調査地: ヤクスギランド(標高1000m)、淀川登 山口(標高1300m)の2箇所	H23.3 H24.1、7 H25.3 H26.10 H27.5 H28	R4	R5	R6	R7	環境省	毎日(10分毎) ※地温のみ ※故障がち
						「気象データの測定」 調査項目: 気温、湿度、降水量、地温、土壤水分 調査地: 中央山岳部の新高塚小屋(標高 1500m)の1箇所	H23.7 H24.3、7 H25.3 H26.10地 H27.12 H28	R4	R5	R6	R7	環境省	毎日(10分毎) ※雨量計故障箇所あ り
						降水量: 永田, 吉田, 上屋久町, 屋久 島事務所, 安房西, 栗生, 屋久町, 平 内の8箇所	H13.4	R4	R5	R6	R7	鹿児島県	毎日(10分毎) 河川課・砂防課観測 データ管理
						気温(屋久島北部側(標高600m)、屋 久島南部側(標高420m)、屋久島中 央部の淀川登山口(標高1300m)の3 箇所)	H21	R4	R5	R6	R7	林野庁	毎日(10分毎)
						降水量(宮之浦(標高5m)、宮之浦林 道(標高510m)、白谷(標高580m)、 白谷雲水峡(標高630m)、小杉谷(標 高680m)、永田カンカケ岳付近(標高 730m)、ヤクスギランド(標高1000 m)、大川林道(標高1020m)、淀川 登山口(標高1380m)、黒味岳頂上付 近(標高1800m)、屋久島南部側(標 高420m)の11箇所)	H8	R4	R5	R6	R7	林野庁	毎日(10分毎)

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
						最高積雪深・積雪期間・気温(黒味岳山頂付近[標高1800m]1箇所) (自動撮影カメラによる積雪深の観測)		H23	R4	R5	-	-	林野庁	
		大気組成、水質測定	2	—	—	降下ばいじん量:屋久島町営グラウンド(宮之浦), 屋久島町消防団中央分団宮之浦班消防詰所(宮之浦), THE HOTEL YAKUSHIMA OCEAN & FOREST(宮之浦)の3箇所		S45	R4	R5	R6	R7	鹿児島県	毎月測定
			3	—	—	水質測定(pH,DO,BOD,SS,大腸菌群数):宮之浦川宮之浦橋地点, 安房川安房橋地点, 永田川永田橋地点, 栗生川栗生橋地点の4箇所		H13	R1	R4	-	R7	鹿児島県	3年に1回(4箇所同時)

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要	調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準		初回	前々回	前回	今回	次回		
I 天然 スギに代 表される 特異な自然 景観が 維持され ていること	A 天然 スギ林が 適切に保 護・管理 され、天 然スギが 持続的に 世代交代 すること	天然スギ 林の現状 把握	4	天然スギ 林の面積	天然スギ 林の面積 が大きく 減少して いないこと	空中写真を用いた天然スギの個体数 をカウントし、スギの分布密度を推 定、経年変化を把握	H6	H21	R元	—	R11	林野庁	
		天然スギ 林の動態 把握	5	天然スギ 林の種組 成及び階 層構造	天然スギ 林の種組 成及び階 層構造に 大きな変 化がみられ ないこと	「原生自然環境保全地域における森 林群集モニタリング調査」 調査項目:一定の大きさ以上の毎木調査 調査地:原生自然環境保全地域内の1箇所 (標高1300mの地点に設定した1haの固定プ ロット)	S58.9	H4.10 H5.9~10	H24.9 H25.8~ 10	R7年?		環境省	10年毎
						屋久島中央地域の垂直方向の植生 モニタリング調査(標高1200m(遺産 地域外隣接地)、 1400m,1600m,1,775m,1,800m,1,936m のプロット6地点)	H14.9.12 ~ H14.11.6	H29	R4	—	R9	林野庁	
		著名ヤク スギ等の 巨樹・巨 木の現状 把握	6	著名ヤク スギである 各個体の 枝数、 葉量	著名ヤク スギである 各個体の 枝数、 葉量に著 しい変化 がみられ ないこと	著名ヤクスギ等診断	H11	R4	R5	R6	R7	林野庁	
						縄文杉の経過観察調査 定点カメラによる樹勢及び下層植生 の観測	H14.9~ H14.11 (経過観察)	R4 (経過観察)	R5 (経過観察)	R6 (経過観察)	R7 (経過観察)	林野庁	
	B その 他の特異 な自然景 観資源が 適切に保 護・管理 されていること	その他の 特異な自然 景観資源の 現状把握	7	特異な自然 景観資源の 現況	特異な自然 景観資源の規 模、形態 等に著しい 変化がみられ ないこと	「モニタリング定点撮影」 調査項目:定点からの写真撮影 調査地:高盤岳展望台、ビヤクシン岳展望台、 鹿之沢小屋、石塚小屋直前岩場、太忠岳、愛 子岳、新高塚避難小屋、烏帽子岳、宮之浦岳 山頂、大川の滝、千尋の滝、第二展望台、翁 岳、石塚山、七五岳、モツチョム岳、神山展望 台、太鼓岩、高盤岳、黒味岳、尾之間の21箇 所	H10(夏秋) H23(夏秋) H25(夏秋) H26(夏秋) H27(夏秋) H28(夏秋)	R4	R5	R6	R7	環境省	毎年 ※R1~ 2年に1回:鹿之沢小 屋、石塚小屋直前岩 場、太忠岳、愛子岳、 烏帽子岳、七五岳、 モツチョム岳、尾之間

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要	調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準		初回	前々回	前回	今回	次回		
Ⅱ 植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること	C 植生の垂直分布が維持されていること	植生の垂直分布の動態把握	8	群集、種組成及び階層構造	群集、種組成及び階層構造に大きな変化がみられないこと	「遺産地域における森林動態モニタリング調査」 調査項目: 一定の大きさ以上の毎木調査 調査地: 原生自然環境保全地域の林分別4箇所(標高300-570m、520-700m、1150-1200m、1300mに設定した固定プロット)	S58.9 H6.9		H25.9	R7年?	-	環境省	10年毎
						屋久島東西南北中央部の垂直方向の植生モニタリング調査(各地域の標高0m[田代ヶ浜・宮之浦・川原・大川]～愛子岳1235m[東部]・国割岳西ピーク1300m[西部]・烏帽子岳1600m[南部]・高塚山1396m[北部]・宮之浦岳1936m[中央部])	H11～	R4 (中央部)	R5 (南部)	R6 (西部)	R7 (北部)	林野庁	東部(H13・18・23・28・R3) 西部(H11・16・21・26・R1・R6) 南部(H15・20・25・30・R5) 北部(H17・22・27・R2) 中央部(H14・19・24・29・R4)
	D 生物多様性が維持されていること	ヤクシカの動態把握及び被害状況把握	9	ヤクシカの個体数	ヤクシカの生息密度が適正に保たれていること	「屋久島国立公園におけるヤクシカ適正管理方策検討」「屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策推進業務」 調査項目: 糞粒数のカウント 調査地: 屋久島全島の30地点	H20.11 H21-6.11 H27.10-11 H28.10- R2.10-11	R4(糞粒法5箇所実施)	R5(糞粒法5箇所実施)	R6(糞粒法5箇所実施)	R7(糞粒法5箇所実施)	環境省	3～5年毎 ※捕獲後の動態変化を詳しく見るため 近年は毎年実施
						「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業」 糞粒法、スポットライトカウント法などによる密度調査(北東部、南部など)	H21	R4(糞粒法5箇所実施)	R5(糞粒法5箇所実施)	R6(糞粒法5箇所実施)	R7(糞粒法5箇所実施)	林野庁	環境省・県と調査箇所等の調整やデータの共有を図る。
						指定管理鳥獣捕獲等事業(【実施計画の策定】業務 糞粒法によるヤクシカの密度調査(屋久島全域))	H27	R4(糞粒法15地点実施)	R5(糞粒法15地点実施)	R6(糞粒法15地点実施)	R7(糞粒法15地点実施)	鹿児島県	環境省・林野庁と調査箇所等の調整やデータの共有を図る。
			10	地域ごとのヤクシカの捕獲頭数	捕獲頭数が適正な生息密度維持のために、寄与していること	狩猟捕獲によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	H19	R4	R5	R6	R7	鹿児島県	
						有害鳥獣捕獲対策事業 農林業等に被害を及ぼすヤクシカの上屋久・屋久猟友会による捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	H23 2,164頭	R4 2,200頭	R5 2,075頭	R6 3,500頭	R7 3,500頭	屋久島町	国庫事業当初計画 数値

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
						「職員実行」によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)		H22 501頭	R4 10頭	R5 17頭	R6	R7	林野庁	
						「有害鳥獣捕獲委託事業」によるヤクシカの捕獲頭数		H27	R4 159頭	R5 125頭	R6	R7	林野庁	
						「屋久島国立公園におけるヤクシカ適正管理方策検討」「屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策推進業務」 調査項目: 植生保護柵内外の植生調査 調査地: 各地に整備した環境省の植生保護柵(西部5、小杉谷4、安房1、湿原1)		H22.11 H23.11 H24.8 H25.9 H26.11-12 H28(14 R2	R4	R5	R6	R7	環境省	1~3年毎 ※別途九州大学が設置・調査している保護柵あり(安房3、ヤクスギランド2)
			11	ヤクシカによる植生被害及び回復状況	林床植生に過度な摂食がみられず、森林生態系の維持及び適切な森林更新が期待されること	「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業」 植生調査プロット等を設定し被害状況を調査するとともに、防鹿柵(植生保護柵)設置箇所の柵の内外の調査プロットにおいて植生の回復状況等を調査(西部、北東部、南部など)		H21	R4	R5	R6	R7	林野庁	
			希少種・固有種の分布状況の把握	12	林床部の希少種・固有種の分布・生育状況	希少種・固有種の生育地・生育個体数が減少していないこと	「屋久島における絶滅危惧種保護管理方策検討業務」「屋久島地域における国内希少野生動植物種保護対策検討業務」 調査項目: 希少種・固有種の分布・生育状況調査 調査地: 東部~南部地域において、希少種・固有種が集中的に分布する地点	H23 H24 H28(54 地点) H30	R4	R5	R6	R7	環境省	5年毎
				13	ヤクタネゴヨウの分布・生育状況	ヤクタネゴヨウの生育地・生育個体数が減少しておらず、稚幼樹の定着に伴う更新が期待されること	ヤクタネゴヨウ生育状況調査(西部地域〔国割岳西側斜面・瀬切川左岸〕、南部地域〔破沙岳周辺・高平岳周辺〕に設定しているプロットにおいて、植生調査及びヤクタネゴヨウ個体数の調査)	H11 (西部地域〔国割岳西側斜面〕)	H26 (西部地域〔国割岳西側斜面〕)	R1 (西部地域〔国割岳西側斜面〕)	R6 (西部地域〔国割岳西側斜面〕)	R11 (西部地域〔国割岳西側斜面〕)	林野庁	

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称及びその概要					調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準						初回	前々回	前回	今回	次回		
		外来種等による生態系への影響把握	14	外来植物アブラギリの分布状況	外来植物アブラギリの生育分布域が拡大していないこと	アブラギリの加害実態調査(屋久島固有種との競合関係、鳥類による繁殖実態調査)					H23.9.30 ～ H23.11.7	R4	R5	R6	R7	林野庁	
		湿原の動態把握	15	湿原の面積	湿原面積が大きく減少していないこと	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(湿原区域の現地測量)					H9	H27	R2	－	R7	林野庁	
			16	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉溜まりの分布状況	湿原の水深が維持され、土砂堆積深、落ち葉溜まりの分布面積に著しい変化がみられないこと	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(流路と湛水区域図を作成し、現地にて流入土砂の堆積を特定し土砂量を把握)					H12	H27	R2	－	R7	林野庁	
		湿原植生の動態把握	17	植生群落分布、種組成	植生群落分布面積及び位置、種組成に変化がみられないこと	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(湿原植生群落図を作成し、植生群プロットにおいて植生調査)、小花之江河植生保護柵設置及び植生調査					H9	H27	R2	－	R7	林野庁	

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
Ⅲ 観光客等による利用及び人為活動等が世界遺産登録時の価値を損なっていないこと	E 観光客等による利用が適正に管理されていること	利用状況の把握	18	屋久島入島者数	—	入島者数:屋久島空港、安房港、宮之浦港		S46	R4	R5	R6	R7	種子屋久観光連絡協議会(事務局:鹿児島県熊毛支庁)	
			19	主要山岳における登山者数	—	「登山者カウンター」 調査項目:登山者数のカウント 調査地:荒川登山口～縄文杉、淀川登山口、高塚小屋～新高塚小屋の4箇所		H18 H23-6 H27 H28(9箇所)	R4	R5	R6	R7	環境省	毎日
			20	自然休養林における施設利用者数	—	屋久島自然休養林(荒川地区及び白谷地区)		H7	R4	R5	R6	R7	林野庁	
			21	携帯トイレ利用者数	2014年までに宮之浦岳ルートを利用する登山者(パーティ別)の60%以上、2022年までに90%以上が携帯トイレを所持すること	「屋久島山岳部携帯トイレ導入推進」 調査項目:特定の利用集中日において、アンケート調査により携帯トイレ携行率等を調査 調査地:淀川登山口		H21 H23-6 H27 H28	R1 (携行率 &使用率 調査)	R2	R7年?		環境省	1～3年毎
			22	遺産地域におけるレクリエーション利用者の動向	—									利用調整の条例 否決により未実行
			23	レクリエーション利用や観光業の実態	—	調査項目:観光客の属性や利用形態及びガイドツアーの実態等の基本情報の把握 調査地:屋久島全域		H7 H15	H27	R2	—	R7	環境省	5～10年毎

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	評価項目	モニタ リング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
		利用によ る植生等 への影響 把握	24	登山道周 辺の荒廃 状況、植 生変化	登山利用 に起因す る周辺植 生が衰退 しておら ず、荒廃 箇所が増 加・拡大 していな いこと	「登山道沿いの植生モニタリング」 調査項目: 定点からの写真撮影 調査地: 屋久島中央部登山道沿い計8箇所 (宮之浦岳ルート7箇所、永田岳ルート1箇所)		H22(秋) H23-5 H26 H27 H28	R4	R5	R6	R7	環境省	毎年
						「登山道沿いの植生調査」 調査項目: 登山道の植生調査 調査地: 屋久島中央部登山道沿い計8箇所 (宮之浦岳ルート7箇所、永田岳ルート1箇所)		H22(秋)		H28	R7年?	-	環境省	5年毎
						登山道周辺の衰退樹木のモニタリ ング調査(屋久島中央部標高1200m地 点、1400m地点、1600m地点、1800m 地点の4箇所)		H14.9.12 ~ H14.11.6	H29	R4	-	R9	林野庁	
			25	避難小屋 トイレ周 辺の水質	登山利用 に伴い、 水質が汚 染されて いないこ と	「避難小屋トイレ周辺の水質調査」 調査項目: 水温、水量、pH、BOD、大腸菌数、全窒 素、全リン、糞便性大腸菌検査 調査地: 避難小屋トイレ周辺の湧水及び表流 水並びに避難小屋トイレ付近の水場		H20(秋) H24(秋)	R2	R5	R6	R7	環境省	